

巻頭言

- 「死の臨床研究会」の発足に当って (金子仁郎) 1

一般演題

- 植物状態と脳死の問題点 (福間誠之) 2
- ある内科医の反省—死亡63症例の検討 (谷荘吉) 3
- 死の受容と家族の問題 (河野博臣) 5
- 乳幼児重傷水頭症の問題点 (河内恵美子) 9
- 死に脅える患者の看護—死を否定しながらの数か月— (高木計美) 7
- 患者と家族の死の受容の差 (橋本秀子 柏木哲夫) 9
- 肉親の死を体験して—ターミナル・ケアに期待すること (乾成夫) 10
- 秘密の解消と死の受容 (松原秀樹) 12

特別講演

- 宗教的観点からみた死の臨床 (樋口和彦) 15

シンポジウム

- 死の臨床の基礎と実際
 - 臨床医の立場より (深津要) 18
 - 看護の立場より (李羽倭文子) 19
 - 宗教心理の立場より (樋口和彦) 21
 - チームアプローチの立場より (柏木哲夫) 22
-

特別講演

- 医学と看護は死にゆく患者と家族に何を与えることができるか—40年の私の臨床経験を通して—(日野原重明) 1

報告

- 英国の癌末期患者の看護—学会報告とホスピスを見聞して—(李羽倭文子) 9

一般演題

- プロンプトン・ミクスチャーの使用経験から(岡安大仁, 他) 12
- 重傷先天性奇形児の治療 13
- 臨床患者の入院期間について(谷荘吉, 他) 14
- 突然死とその周辺(篠田知璋) 15
- それぞれ異なった受容状況を示した癌患者の3例の死の臨床について(松本義峯, 他) 17
- 知る権利と知らないでおく権利—癌宣告をめぐって—(柏木哲夫) 18
- 悪性腫瘍患者に対するムンテラの重要性—その重要性と限界—(松田重三) 19
- 癌末期患者への医療についての理念と実際—医師・看護婦へのアンケート調査から(河野友信, 他) 20
- 癌を告知されながら危機を脱した人の心理状態—癌の自然退縮症例のなかから(中川俊二) 22

パネル

癌と死の臨床

- 発題1. 癌末期患者の看護について—白血病患者の看護経験から—(池田節子, 他) 23
- 発題2. 癌末期患者の医療上の諸問題—心身医学の立場から—(末松弘行) 24
- 発題3. 癌と死の臨床(河野博臣) 25
- 討論(石川中, 他) 27

事務局だより 表紙4
